

## 学生大使 実施報告書

氏名:遠藤 結楽

学部・学科(コース)・学年:工学部建築デザイン学科1年

派遣先大学:ラトビア大学

派遣期間:2025/2/28~2025/3/13

### 1 日本語教室での活動内容

日本語教室は平日の16時10分から17時40分までと17時45分から19時45分までの時間を使い、1日に2コマ行いました。日本人の学生大使13人に対し、ラトビア人の日本語クラスへの参加者は毎日異なるため、マンツーマンで授業を行う日もあれば、日本人2人に対してラトビア人1人、または、日本人1人に対してラトビア人2人など、授業形態は様々でした。ラトビアでは3ヶ国語以上喋れるというのが主流であるということもあり、言語の吸収スピードがはやいと感じました。日本語の習熟度は人によって様々で、あいうえおなどの基本的なひらがなの読み書きを教えることもあれば、方言や若者言葉など、日本人でも迷ってしまうような難しい表現まで問われることもありました。折り紙やあやとり、お手玉など日本文化に触れたり、お互いの国の音楽や映画を紹介しあうなど、雑談の一環で授業を行うことも多くありました。

### 2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室のない休日と、平日の日本語教室が始まるまでの時間、そして終わってからの時間は自由にリガの町を散策していました。教会や旧市街、バルト海、中央市場、図書館、美術館、オペラハウス、宮殿など様々な場所に行きました。その中でも私が特に印象に残っている場所が2つあります。1つ目はオペラハウスです。バレエの公演を夜に見に行ったのですが、初めてプロのバレエの演技を見て、芸術性の高さに圧倒されました。バレエというとフワフワとしたドレスをきた華奢な女性たちが華やかに舞うイメージがあったのですが、そのようなイメージ通りのバレエだけでなく、力強い男性も交えたパワフルな演技も見ることができました。また、歌に合わせて踊る演目もあり、音楽が生演奏だったこともあってか、異世界にいるかのような気持ちになりました。本場の芸術を味わうことができる機会はなかなかないので、貴重な経験となったと思います。2つ目はルンダーレ宮殿です。私たちの生活拠点となっていたリガから離れた場所にあったため、電車で現地の学生の家近くの駅まで行き、そこから合流してラトビア人の学生のご両親に車で乗せていただき、宮殿まで連れて行っていただきました。絵に描いたようなお城があたり一面に広がっており、細部までもがヨーロッパを感じさせる美しさで溢れていました。部屋ごとにモチーフとなっている色が異なっていたのもとても魅力的でした。ラトビアの民族衣装を着てリガの町を歩いたときには自分がおとぎ話の登場人物になったかのような気持ちになりました。また、アパートにラトビア大学の学生を招いて、お好み焼きを振る舞ったり、反対にラトビアの伝統的なビーツのスープを作っていただくなど、お互いの国の食文化を紹介しあったり、ソファに座ってたわいもない話をしたりと、日本人同士で会話をするのと大差ないくらい、深い関係性を築くことができました。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

私は今回の参加が決まってから日本に帰ってから連絡を取り続けるくらい仲のよいラトビア人の友達を作ること、ラトビアでしかできない経験をたくさんすること、実践的な英語のスキルをあげるこの大きく3つを目標として掲げていました。結果、その目標は達成できていると感じています。

日本に帰ってからもお互い今何してるのか連絡を取り合ったり、一緒に旅行したいと話すほど仲の良いラトビア人の友達を作ることができました。外国人の友達作りたい!という気持ちで挑むのではなく、日本人の友達と話すのと同じようにフランクに話しかけた方が仲良くなれるということに気がきました。2つ目の目標に関しては、最終日に本屋で見たラトビアの有名な観光地がたくさんあった絵本に出てくる場所が全て知っている場所になっているほど、ラトビアの有名な観光地は行き尽くすことができたと感じています。また、観光地だけでなく現地の学生のおすすめの飲食店や、自分たちで何回も行くほどお気に入りの飲食店に出会い、ラトビアの中で好きな場所がたくさん増えました。ラトビアの民族衣装もラトビアでしか着れないので、貴重な経験になったと思います。3つ目の目標に関しては、旅の最初よりも後半の方が遥かに英語が頭に浮かんでくるほど、目に見えて話せるようになったと感じました。リスニング力もあがったように感じます。こんな短期間でここまで変わったことに自分自身が驚くほど、英語を使ったコミュニケーションが取りやすくなりました。お互い母国語が英語ではないからこそ、相手に伝えようという意思を全面に出して英語を使っていたからなのではないかと思っています。世界中どこにいても英語はついて回ると思うので、これからも努力する必要があると思いました。

### 4 プログラムに参加した感想

今回で2回目の参加でしたが、前回同様現地でしかできない経験に積極的に参加できていたと思います。自分から行動しなければ得られない学びがあるということも深く感じました。国の違いは大きなものだという先入観があったのですが、基本は同じ人間同士、楽しいときは笑うし、悲しいときは泣くし、共通点もたくさんあると分かりました。日本のよさを実際に自分たちがラトビアに赴くことで少しでも伝えられたのではないかと思います。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回は初のヨーロッパだったのですがもっといろんな地域に行ってみたいという意欲が高まりました。実際に行ってみなければ分からないこともたくさんあると今回のプログラムを通じて感じたので、興味を興味のまま終わらせずに実際に自分の目で確かめて、視野を広げていきたいです。また、どこの国に言っても困らないくらいの日常会話を英語で話せるように英語の勉強を継続していきたいです。

## 6 現地での活動写真

### 写真1

ラトビアの伝統料理



### 写真2

ラトビアの民族衣装



写真 3

ルンダーレ宮殿



写真 4

オペラハウス

